



2014年7月19日(土)
17:30 (16:45 開場)

7月20日(日)
14:00 (13:15 開場)

杉並公会堂 大ホール
(JR 荻窪駅 徒歩7分)



今年も厚響の暑い！熱い！
「オペラの夏」が巡ってまいります。

いつのまにか、すっかり厚響の夏の風物詩ともなりました「杉並区民オペラ」との
共演も、5回目の今年をもちまして、一つの区切りを迎えます。

その記念すべき作品となりますのは、ヴェルディの円熟期の大作「アイーダ」です。
指揮者にお迎えするのは、2010年「カヴァレリア・ルスティカーナ」「道化師」で
ご一緒して以来二度目の共演となります、柴田真郁先生です。

杉並公会堂の、あの決して広いとはいえないスペースに、どのような古代エジプト世界が
展開されるのでしょうか？演出家ダリオさんの手腕に期待が高まりますね。

どうぞ、7月は皆様おそろいで、杉並区民オペラにお越しく下さい!!



「アイーダ」あらすじ

●舞台は紀元前のエジプト。英雄ラダメスはエチオピア軍に勝利したら、アイーダと結婚するのだと夢見ている。しかし、エジプト王女アムネリスもまた、ラダメスを愛している。振り向いてくれないのは、もしかして奴隷のアイーダのせい？と、アイーダに探りを入れる。実は奴隷のアイーダは敵国エチオピアの王女。彼女は恋人が自分の国に攻め入るのを見送らなくてはならない。「勝って帰って来てほしい。でも…」と、悩むアイーダ。→

しかし、ラダメスは戦いに勝利して華々しく凱旋する。連れて来た捕虜の中に、身分を隠した父王アモナズロの姿を見て驚くアイーダ。父は密かにエチオピア奪回の計画を練っておりラダメスを味方に付けるよう、アイーダを説得する。仕方なく従うアイーダは、ラダメスから軍の機密である秘密のルートを聞き出すことに成功する。喜ぶアモナズロ。その場面を偶然アムネリスに目撃され、ラダメスは反逆の罪で捕らえられる。さて、ラダメスとアイーダの運命は??

※『ぴあ OPERA WONDER LAND』(1993年発行)より
一部引用

ま いく 真郁先生にインタビュー!!!

ただ今、私たちは長大なヴェルディの楽譜を前に まさに奮闘中！ですが、練習の合間を縫って、指揮者の柴田真郁先生に「アイダ」の見所などについてお話を伺うことができました。真新しい「アミュ」のロビーで、不慣れな司会進行にも関わらず、ざっくばらんにお答え下さいました。



これがアイダトランペットです！

●ハープの原型は、「弓矢」だった!?

—このオペラの特徴として、普段は使われない特殊な楽器「アイダトランペット」(左図)が登場しますね？

そうです。今のところ6人の予定で、多分演出上、衣装を着けて役者として出てもらうという形になるでしょう。だから暗譜は絶対にしてもらわないとね(笑)。

—今回、ハープも大活躍のようですが？

今回は2台使用で、内1台はステージに乗せるかもしれないです。ピットが狭いという現実的な問題もあるけれど、1幕の2場 巫女長のシーンで、最初にハープがトロントロンと鳴るんですが、そのときハープが近くに有ってほしい。ハープって古くはメソポタミアの壁画の中に、こうやって弾いている絵があるじゃないですか。元々は何から出来たか知ってますか？弓矢なんですよ。(矢を放つための)弓に弦を張ることを思い付き、そこからどんどん進化してきたのですが、もとは武器から生まれたもの、でもああいう美しい音を奏でられちゃう、本当に魅惑的な楽器ですよ。

ヴェルディはどのオペラでも必ずと言っていいほど使っていて、ハープのその特性を知ってうまく書いていると思う。モンテベルディが最初で、その後いろんな作曲家がオペラで使用しているけど、その大半が美しい場面、感動して涙を流すような場面で、ヴェルディのように悪魔的、呪術的、魔術的な場面に使った作曲家はほとんどいませんね。1幕の2場、巫女長というのは天体と地上、神との対話の出来る人。ハープから始まって巫女長が歌いだす。もう本当に神秘的な魔術的なシーン。だから絵としてもやはりそばにハープを置きたいというのが私の願いです。



エジプトのハープ弾きの像 (B.C.1200年)

●生真面目なイタリア人？

—今回、演出の方はイタリア人ということですが？

彼(ダリオ・ポニッスィ氏)とは5年前オペラと一緒にやっています。そのときはロッシニでした。とにかく非常にユーモアがあって、ある意味日本人っぽいところがある。たとえば7時12分から休憩をとったら7時22分までとしたり(普通は20分か25分までと言うでしょう?) 本当に日本人っぽい生真面目さ、細やかさ。これがイタリアの香りとうまくミックスされるんじゃないかと期待しています。

●アイダの本当の主演はあの人!?

—今回アイダが初めてという人にアピールしたいところ、ポイントを絞って聴くとしたらどこでしょうか？

1幕始まってすぐ、アイダが登場して来てから、アムネリスとアイダの心理戦ですね。ラダメスをめぐっての この2人のやりとりが面白いところじゃないかな？

—先生としてはアイダとアムネリス、どちらがタイプなんですか？

そりゃもう完全にアムネリスですよ。このオペラ自体が「アイダ」じゃなくて「アムネリス」という作品ですね。「オテロ」もやはり「ヤーゴ」が主役です。アムネリスというのは国を守る王の娘という気品、それから皆がひれ伏すような力を持っている、だけど女性っぽい。超魅力的です!(力説!)

—2幕のようなスペクタルなイメージが強いですが、このオペラの本当の魅力は？

人によって感じ方は違うでしょうが、正直あまりにも商業的なオペラというか、流れるに深い所にたどり着かないような創り方をしていると思う。僕はこれをヴェローナの野外劇場で観ました。ほとんどマイクで流してたし、豆粒にしか見えなかったけどね（笑） この作品は大きな劇場が必ずしも必要ではないけど、お金がかかるし合唱が果てしなく多く要る。ヴェルディがト書きに「ここで象が出てくる」と書いてあるし（笑）もともと祝祭的に創ったオペラだし、やっぱりそれだけ商業的な気がする。でもそこが見どころではないんです。

アムネリスという人が立場上、自分から人を愛してその人と一緒になるのが無理、相手を選ぶ権利がない、恋愛ができないという環境がまず有り、欲求のまま生きていけないことが彼女を狂わせていく。その彼女がどういう風に人間的に変わっていくかが面白い。4幕で彼女が一人ぼつんと、もうアイダのことうんぬんではなく ラダメスが苦しめられているという事に対して、なぜこうなったのか？それは私のせいなのか？アイダを貶めようとしたことが結果としてラダメスを貶めることになったと苦悩する姿が印象的です。

—最近は何衛的な演出も多いようですが？

あ～、最近は何衛はね。僕は古典的な方が好きですね。ただ演出家が不利なんですね。古典的な演出は今までやりつくされていて この他に何が出来るとか。だから読み替えたりちょっと現代的な演出にしないと。逃げ道だと思えます。僕がラッキーだったのは、楽譜というものは変化しないんですね。



この後も、先生が指揮者を志すきっかけとなった出来事など 楽しいお話が続きました。柴田先生には次回 10月の第71回定期にも指揮をお願いしております。この続きはまた次号の紙面に掲載させていただきます。どうぞお楽しみに。

～お知らせ～

「アイダ」のチケットを例年通り 定価の一割引きにて 会員の皆様にお世話させていただきます。ご希望の方は、この下の申込書にて 6月20日までに FAX でお申し込み下さい。なお、7月19日午後、夕方の本番を前に行われます 通し稽古（ゲネプロ）が公開されますので、どなたでも御観覧になれます。（このときは20日のキャストの出演になります） 入場整理券を同封いたしましたので、本番ご都合がつかない方は、ぜひこのときに御来場下さい。

「アイダ」チケット申込書

※S席（5400円）、A席（4500円）のみとなります。

7月19日（土） 席 枚

7月20日（日） 席 枚

お名前 _____

お電話番号 _____

FAX 042-712-5824（事務局 西尾方）まで お申し込み下さい。

後日、お振込み等のご案内を申し上げます。（※切：6月20日）





「アミュール あつぎ」 オープニングイベントに参加しました!



去る4月26日、「アミュール あつぎ」のオープニングイベントの一つであるミニコンサートに、当団より弦楽合奏と木管四重奏の2つのグループが参加して、市民の皆様アンサンブルを楽しんでいただきました。
アミュールはパートナーセンターに代わって、私達の新たな練習の拠点となります。
真新しいスタジオで気分一新!オペラの練習に励んでいます。



2013年度 会計報告 (会計年度は2013年4月1日~2014年3月31日)

【会員数】

種類	年会費(円)	人数(口数)	計(円)
Solo	2,500	14 (15)	37,500
Duet	5,000	8	40,000
Concert	10,000	6	60,000
Symphony	30,000	1 (2)	60,000
計	—	29人 (28口)	197,500

【収入と支出】

収入(円)		支出(円)	
昨年度繰越金	24,195	郵送代	8,480
会費	197,500	事務用品	315
貯金利息	47	年賀状ハガキ	2,500
		会員招待入場券代金	87,000
		振込手数料	0
		交響楽団助成金	100,000
		慶弔費(弔電)	2,250
		次年度繰越金	21,197
計	221,742	計	221,742

厚木交響楽団 友の会 2013年度会計は、4月の厚木交響楽団 定例役員会において、会計監査・承認されました。定期演奏会の入場料(会員招待券1枚につき500円、年2回の公演で合計87,000円)のほか、10万円を団への助成金として、楽器運搬用トラックの維持費・ガソリン代等に充てさせていただきます。皆様の温かいご支援に感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後の演奏会 予定

● 第71回 定期演奏会

10月8日(日) 14:00 開演 厚木市文化会館
メンデルスゾーン 交響曲第3番「スコットランド」
ブラームス 交響曲第2番
指揮/柴田 真郁

● あつぎ市民芸術文化祭

12月14日(日) 13:30 開演(予定) 厚木市文化会館
モーツァルト「レクイエム」ニ短調 K626 他
指揮/大浦 智弘 合唱/あつぎ市民合唱団

